

臨床研究の必要性

今年も開院記念の一つとして各部署からの研究発表が行われました。臨床研究部長の篠原勉先生を中心に毎年企画開催されていますが、今年は発表の希望者が多く調整に苦労されたようです。開院した頃開催された日本医療マネジメント学会の高知支部会では当院からの発表演題が決まらずやっとの思いで1演題を申し込んだことが思い出されます。しかし、現在では全国学会や地方会に多数の演題を発表し、今年の医療マネジメント学会の高知支部会では県内の病院の中で最も多くの演題を発表するまでになり、職員の学会への取り組みの変化を感じることができます。当院は開院以来高度医療、臨床研究、教育・研修、情報発信、経営基盤の確立を基本姿勢として病院運営に取り組んでおります。病院として高度医療の提供や経営基盤の確立は当然のことですが、臨床研究、教育・研修は国立病院機構の病院として推進すべき重要な課題の一つと位置づけております。今回の多数の部署からの多職種からの発表に高知病院が新しいステージに上がったことを実感しました。また、発表は全て質の高い発表であり、更に発展させ全国学会での発表や誌上発表につながることを期待しております。最近昨年度の国立病院機構の各病院での学会発表数と誌上発表数についての報告がありましたが、高知病院は他の病院と比較しても多数の業績があり、特に国際誌への発表も多く高い評価をうけております。最近の大きな話題としてノーベル物理学賞が青色発光ダイオード（LED）の発見により赤崎勇先生、天野浩先生、中村修二先生の3名の研究者に授与されることが連日ビッグニュースとして大きく報道されています。今回の受賞対象は今までとは異なり「明かり」に関するもので、ノーベル賞が身近に感じられた人も多いと思います。選考委員からは青色LEDの発見で「白熱電球が20世紀を照らした。21世紀はLEDが照らす」と声明が出されています。臨床研究とこのような仕事を比較することはできませんが、本質のところでは通ずるところがあるように感じます。青色LEDは人類への大きな貢献ですが、私達が取り組む臨床研究から得た結果は個々の患者さんへ還元されることで医療に貢献することができます。臨床研究を行っていくことは医療の質をあげることであり、臨床研究なくしては医療の進歩はないと思います。臨床研究に力を注ぎ優れた研究を発表することは病院がこの高知で存在感を示すためには必須のことです。地方の病院で臨床研究の環境がそろっているわけではありません。しかし、中村修二先生は徳島大学を卒業し地方で研究をすすめ大きな成果を出しており、地方大学出身者でもノーベル賞を取ることができることを証明してくれました。地方の病院である利点を活かして全国に注目されるような研究発表ができるように一緒に頑張っていきたいと思います。